留学体験記

北京大学交換留学

法学部法学科大塚美奈

目次

留学の理由目的
留学先での学習活動と生活の環境
一日当たりのスケジュール時間割など
印象に残った留学中のエピソード
留学して学んだこと
語学がどれくらい上達したか
留学を進める理由
トビタテで留学してよかったこと

中国という国にもともとから興味を感じていた。しかし、日本で、中国というと漠然としたイメージしかない。加えてほとんどがマイナスのイメージでしかない。例えば空気が悪い、治安が悪い、汚い、中国人はマナーが悪いそのようなところだろうが、そういう漠然としたイメージを持っている人は果たして本当の中国を知ったうえで言っているのだろうか。それを要するに決めつけということもできるのでないのか。しかし本当の中国を知らない私もそのような人のうちの一人でしかない。だから留学をして私なりの中国というものを知りたいと思ったからだ。

留学先では寮で生活していた。学生寮は中国人の寮と留学生の寮と分かれている。私の部屋は二人部屋でルームメイトはアメリカ人だった。二人部屋といっても部屋が分かれているので実質一人部屋のようだった。寮と学校の距離は 10 分前後で通いやすい距離である。食事は基本的に学校の寮で済ませた。中国はデリバリーが充実しているのでデリバリーを利用することも多かった。

私のカリキュラムは一年のうち前半は対外関係学院という場所で語学勉強をしたのち、後半は国際関係学院というところで国際関係について学ぶもので、前半は毎日中国語の勉強で朝から夕方まで授業があった。後半は四科目選択した。（対外関係史、報刊、国際組織と国際法、政治学原理）それぞれ週一回の三時間授業だった。

留学で学んだことは恥を恐れず積極的に行動することだ。いくら留学に行ったとしても部屋にこもって、日本人とばかりつるんでいては何も成長できない。積極的に現地の人と関わる努力をすることが大切だと学んだ。

私が中国語を始めたのは大学に入学して第二言語として中国語を選択した時である。大学の授業で中国語の基本を一年間学び、二年の前期で会話の基本の授業を学び、留学した。ただ、大学の授業はあくまで基本的なことで実践的なことまで学ぶ時間がないまま留

学に臨んだ。英語は日常会話ではなんなくできたので、中国でも問題なく生活できると思っていたが、北京は駅でも街中でも英語が全く通じなかったので、現地に行って最初の一か月はとても苦労した。しかし前半の語学学校での勉強と個人的な語学勉強の甲斐あって中国に行って二か月で HSK 五級を取得し、留学を終えたときには HSK 六級を取得することができた。

私の学部では同じ時期に北京大学に留学する人はおらず、何も知らなかったので学内選考が通ったときから留学するまで不安しかなかった。しかし、過去に北京大学に留学した先輩方に尋ねたり、トビタテの人脈を使ってすでに中国に留学している学生を紹介してもらって様々な不安を解消してもらったり準備等で必要なものを教えてもらった。ほかにもトビタテは事前研修、事後研修があり、留学計画のブラッシュアップを行ったり、留学から帰ってきたら、留学の振り返りをしっかりできたりする。これらはトビタテで留学してよかったと思う理由である。

留学を進めるのは、留学することで気づいたことがたくさんあったからである。
留学を経て、周りの支えがなければこの留学はなかったことを強く実感できた。留学交流推進課の方々をはじめとする法学部の真水先生、先輩方、トビタテの仲間たち。日本で生活しているとき、周りの支えへの感謝はもちろんあったものの、留学を経て周りの支えを強く実感できた。

よく留学はすべきだというように言われるが実際なぜすべきなのかという点について述べることができるのは行った本人だけである。トビタテの事後研修でも言われたことだが、留学の成果というものは形として現れずとも自分の中で現れるし、実際それを感じる時期は人それぞれ異なる。留学してすぐ感じる人もいれば留学して何年もたった後の人もいる。やらずに後悔するよりやってから後悔する方が断然いいものだと考えるので、迷っている人はまず行動してほしい。その行動する勇気こそが今後の人生を変えるファクターになるものだと知った一年の留学だった。

北京大学